

# 年をとって耳が聞こえなくなったら どうするか？

ミルディス小児科耳鼻科  
平野 浩二

年をとれば確実に耳の聞こえが悪くなります。70歳ぐらいになると、自覚する人が多くなるようです。

「難聴が起こると認知症になる」

最近、よく言われるようになりました。正確に言うと、難聴が進むと認知症になるのではなく、難聴が進み周囲の人と会話が成り立たなくなると、認知症が進みます。

というのは、会話をするのが脳を活性化させる一番の手段だからです。年をとって会話が成り立たなくなると、同居の家族や周囲の人が声をかけなくなります。このため、一日ボーッととして、認知症が進むきっかけになるのです。

これを防ぐにはどうするか。それが補聴器です。補聴器を使うのが一番いいのです。ただ、国が決めた基準を満たすものしか「補聴器」という名称が使えないため、補聴器なるものはけっこう値段が高くなります。最低でも5～6万円はかかると思ってください。自治体によっては高齢の難聴者に購入費用を助成する制度があり、それ

を利用すると購入しやすくなります。

補聴器なるものは、どうしても価格が高く、年金生活ではとても購入できないと嘆いている人もいることでしょう。そのような人にもいい方法があります。耳の聞こえの悪いのを補う別の器械を使えばいいのです。これらは、「補聴器」という名称は使えないので、別の名前で売られています。「集音器」という呼び方が多いように思います。テレビショッピングでがんがん宣伝している「楽〇〇ヒアリング」というのも同じような機種です。補聴器とは一言も言っていないかもしれませんが、ほとんど補聴器です。しかも、格安で買えます。本来補聴器に入れなければならない機能を削ることで安く提供できるのです。値段が安いので気軽に購入できます。試してみるのもいいでしょう。

補聴器は補聴器屋さんで買うことができます。ところが、この集音器のようなものは補聴器屋さんでは扱っていません。宝石店がガラス玉の宝石を扱っていないようなものですね。では、集音器はどこで購入するのか。大型家電量販店で扱っていること

が多いようです。電化製品の扱いなのですね。最近は書店でも置いています。書店に眼鏡を置くと売れるように、その感覚で集音器入りの本として売っているのです。あとは介護用品店でも置いているでしょう。

こちらはお年寄りが集まる店ですから。

残念ながら、老人性難聴は治ることはありません。年を重ねるにつれて、どんどん聴力は悪化していきます。長生きする上で聞こえを保つことは重要です。聞こえを保ち、会話を保ち、頭脳の衰えを防ぎます。長生きして、日々の生活を楽しくしていきますましょう。

日本人は補聴器を使うことを嫌がります。まだそんなに年をとる前から補聴器を使ったほうがそれに慣れて長く使いやすいので、できれば70歳ぐらいから使用をはじめたほうがよいのです。

難聴が進行し、どうにもならなくなつてから補聴器をつけたいという人が後をたちません。難聴が進むと、周囲の雑音がうるさいから使いたくないという嫌悪感が強く出ます。このため、補聴器を使わないようになってしまいます。

世界の高齢者と比べると、日本人高齢者の補聴器使用率はすごく低いです。80歳の高齢者が、「補聴器つけると年寄りくさく見られるので嫌だ」と言うのです。どこから見てもお年寄りにしか見えないのですが。

遠視で老眼鏡をかけるのはなんとも思っていないのに、いざ補聴器となると皆さん嫌がります。周囲の若い人も「補聴器つけたらこの人はもうだめだ」という意識があるのだと思います。日本全体のこの考え方

をやめないと、これからの超高齢化社会は成り立たなくなることでしょう。そんなことを日々考えながら、難聴のお年寄りを診察しています。

政治家や芸能人にはどんどん補聴器をつけてテレビに出てほしいと思います。普段は補聴器を使っている、テレビに映るときだけ外してしまう人も多いのです。

梅沢富美男さんは「徹子の部屋」で、「難聴のため補聴器をつけたら夫婦円満になった」というエピソードを語っています。話が聞こえないとイライラしてしまうからでしょう。ぜひ黒柳徹子さんにも「徹子の部屋」で補聴器を使ってほしい。「アタシも最近耳が遠くなりまして、補聴器を使っています。するととてもよく聞こえますよ」と言ってくれたらなあ。

(ひらの・こうじ=足立区)

